

**Q. ワクチンは、何のために
するのでしょうか？**

**A 病気になってから
治すため**



**A 病気になる前
ならないように**



ワクチンとは？

- ・病気になる前に、体が「守る準備」をするためのもの



ワクチンの作用の一例

ワクチンが病気から守るしくみ

ワクチンを打つ



- ✓ ウイルスの形を覚える
- ✓ ウイルスそのものを入れるわけではない

体が準備する



- ✓ ウイルス専用のバリアを作る

入ってきた時に防ぐ



- ✓ ウイルスの侵入を防ぐ

ワクチンには、自分を病気から守る働きがあります。

病気が人から人へうつるのを減らして、まわりの人を守るものもあります。

ヒトと病気の歴史

昔

 感染症

重い病気

亡くなる人も

今

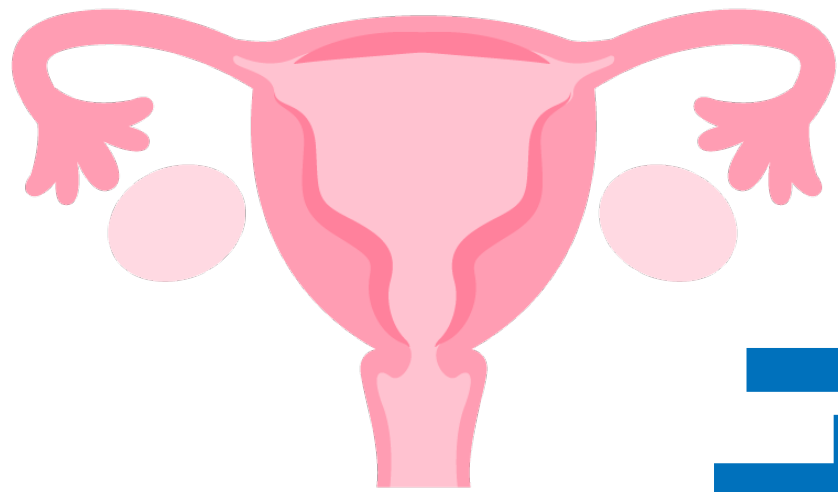
ワクチンが広がる

防げる病気が増えた

天然痘

地球からなくなった病気

ワクチンで防げる可能性のある
「がん」もあります



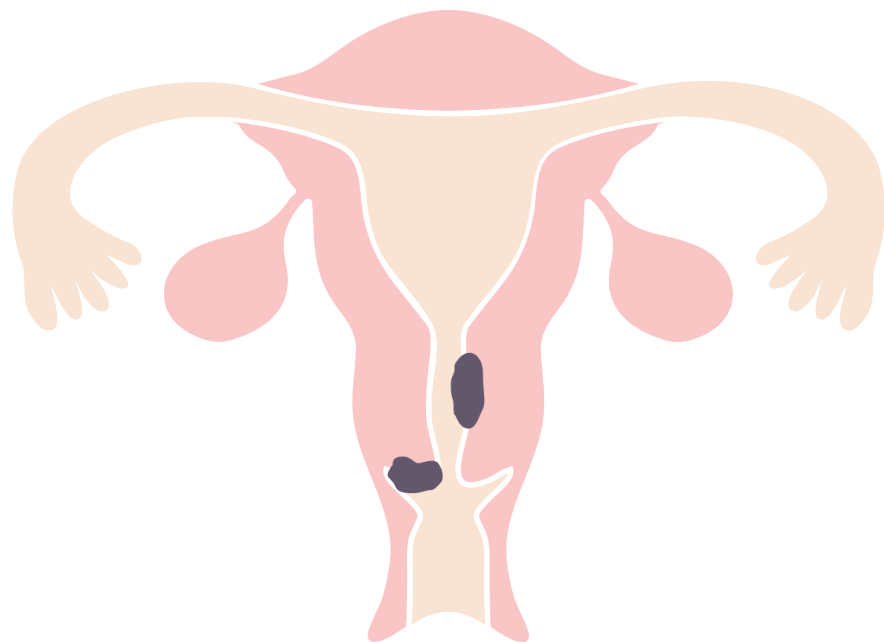
そのひとつが

けい

子宮頸がん

子宮頸がん 子宮の入口に できる「がん」

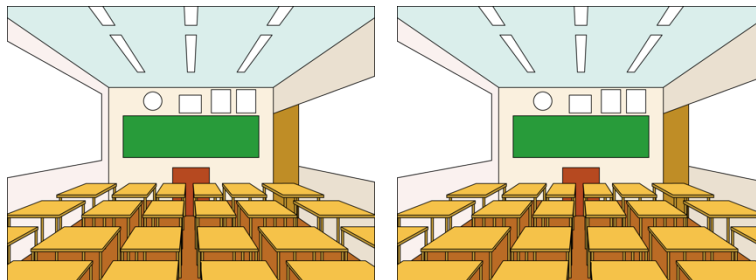
子宮頸がん



若い世代でも
かかることがある

20代からかかる人が増え始めます

めずらしいがんではない



約 2 クラスに
ひとり

生涯のうちに子宮頸がんになる人は、
1万人あたり約130人（厚労省）

子宮頸がんの多くには、 HPV というウイルスの感染が関係しています

HPV（ヒトパピローマウイルス）には、100種類以上の型があります。

HPV は、性的な接触によって感染することがある、
とてもありふれたウイルスです。

特別な人だけが感染するウイルスではありません。

HPV は子宮頸がんだけに関係する？

がんと関係する「高リスク型」

16 18

31 33 45

52 58 など

がん以外

6 11

子宮頸がん

膣がん

中咽頭がん

外陰がん

肛門がん

陰茎がん

尖圭コンジローマ

HPVは、女性だけに関係するウイルスではありません

HPV = がん、ではありません

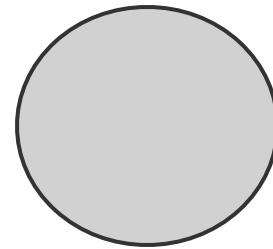
HPV に感染

一部
▶

感染が
長く続く

▼ 多くの場合

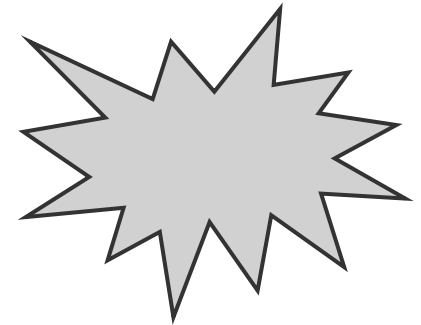
自然に
排除される



細胞



細胞が変化



長い時間をかけて
子宮がん

HPV 感染 = 子宮頸がん、ではありません

なぜ中学生のうちにワクチン？

感染する前に、体内で準備するため

① ワクチンを接種

HPVに似た
「目印」が入る

※HPVそのものではありません



② 体が準備する

こうたい
免疫が抗体をつくる



③ HPVが入ってきたとき

抗体が感染を防ぐ



日本の定期接種対象：

小学6年～高校1年相当の女子

本当に子宮頸がんを防げる？

HPV ワクチン



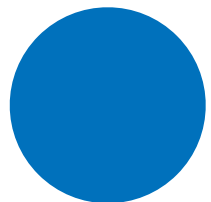
HPVワクチンを早くから導入した国では、
接種した世代で子宮頸がんそのものが減っています。

スウェーデンやイングランドなどの大規模研究で、
若い年齢でHPVワクチンを接種した世代における
子宮頸がんの減少が確認されている

Lei J, et al. *N Engl J Med*. 2020.
Falcaro M, et al. *Lancet*. 2021.

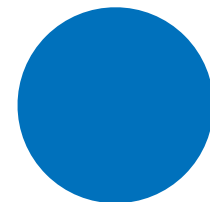
二本柱が大切

HPVワクチンを受けても、大人になったら検診を



HPV ワクチン

感染を予防



子宮頸がん検診

変化を早く見つける

20歳になったら子宮頸がん検診

ワクチンと検診 どちらも大切

ワクチンのあとに起きる可能性のあること

 注射したところが痛む

 赤くなる・腫れる

 発熱

 疲れた感じ

 頭痛 など

多くは一時的な反応です

ワクチン接種に共通

 注射のあとに

気分が悪くなることも

→接種後は座って休憩

不安に思ったら？

「副反応が心配」

「注射が苦手」

「SNSで怖い話を見た」

「家族と意見が違う」

「受けるか迷っている」



わからないままに
しなくていい

① 情報源を確かめる

SNSの体験談だけで判断せず、公的機関などの情報も確認する

② 質問する

医師・看護師・薬剤師などに聞く

③ 不安を伝える

「注射が怖い」「副反応が心配」

と伝えてよい

ワクチンを打つ？ 打たない？

打ったら「えらい」

打たなかったら「ダメ」

ということでは**ありません**。



知ること。



正しい情報を知ることが、
考える第一歩になります。

わからないことを
聞くこと。



わからないことは、
そのままにしないで大丈夫。

心配なことを
伝えること。



心配なことや不安は、
ひとりで抱えなくていいよ。